

女性ならではのきめ細やかな配慮

渡辺建設株式会社
営業部 滝澤智恵子



平成元年に社会人となり、既に25年という長い年月を建設業に身を置いております。入社当初は建築の施工管理として配属され、いわゆる女性現場監督の走りでした。珍

しがられ、からかわれ、楽しくもあり、毎日を目まぐるしく過ごしたことを記憶しております。

建設現場では一日一日が目新しいことばかりで、とにかく仕事を覚えることに必死でした。指示ミス、施工図の記入ミスによって生じる大きな損害、決断することの不安、それによってもたら



社内コンサート風景

される喪失感や達成感、とにかく毎日が真剣勝負でした。

現在は営業職として再雇用していただき、建設現場の後方支援もさせていただいております。業務の中には、私が若かりし頃に施工管理として携わった建物の修繕や解体などもあり、以前の苦労や工夫を思い返すことも度々。また、新築物件に設計から関わらせていただいたりと、経験は宝であることを実感しております。

建設業全般、いまだ男性色の強い業種であり、建設業における女性の構成比率は15%と低く、背景には3Kといわれるイメージの悪さが大きく影響していると思われます。また、工事現場で働くイメージは力仕事。しかし現実には、書類や施工図の作成などのデスクワーク、現場内では品質管理、工程管理、安全管理等きめ細やかな配慮の必要な仕事が多く、女性ならではの…という視点が生きやすい職種だとも思います。

国が目指す〈女性が輝く社会〉。まだまだ課題は山積みで、現在社会の一端を担っているであろう私たちはその渦中にいます。

しかし、この現状に果敢に挑戦する女性が数多くいることも確かです。女性ならではのしなやかな強さで、後進の世代への道しるべとなれるようにまずは身近なところから努力したいと思っています。

▲滝澤智恵子（たきさわ・ちえこ）さん。宇都宮工業高校建築科を卒業してすぐに入社。渡辺建設建築部の女性第1号。勤務時間／午前8時～午後7時。

渡辺建設 滝澤智恵子さん

地元大手の渡辺建設で現場管理をしている滝澤さんは、現場から現場へと移動する渡り鳥のような生活。大きな建物は完成するまでに半年から1年かかり、その間は会社に顔を出すことも少ないとか。

「高校時代から男の人の中で生活して来たので、その辺は苦にならなかつたです」と彼女。それでも入社当初は、職人さんにつきいことを言われたり、意地悪をされて泣いたことも。コ

「何もしなかった土地に建物が完成した時って、すごくうれいんです。でも、それを引き渡す時ってそのうれしさと同じくらい寂しいんですよ。そんなやさしい彼女の姿は、大きな建物を建ててはく住宅を造る

シクリートの量や大理石の大きさを間違えて発注してしまうというミスもあつたとか。そんな彼女も今ではミスも減り、職人さんたちとも仲良くやっています。

平成5年8月28日付、週刊誌マロニエリビングに掲載されました。